

日蓮

2018 年本試

問 3 日蓮についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

22

- ① 個人の救済だけでなく、正しい仏法に基づく政治の実現が重要だと考え、為政者への布教も行うことで、現実社会を仏国土とすることを目指した。
- ② 国難の到来を防ぎ、国土安穩を実現するためには、宗派間での融和を図ることが必要だと考え、他宗に協力を呼びかけた。
- ③ 『法華経』には、釈迦は時を超えて永遠に存在し続けると説かれていることに着目し、末法の世であっても救済は達成され得ると主張した。
- ④ 『法華経』には、人々の救済に献身する菩薩が描かれていることに着目し、その姿に自己をなぞらえることで教えを説こうとした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	22	②	2

2018 年追試

問 4 次の文章は、宗派の異なる僧の争いを描く狂言『宗論』についての記述である。文章中の ～ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

二人の僧は旅の途中であり、一人は宗祖が晩年に いんぎい 隠棲した に参詣した帰りであり、もう一人は善光寺参りの帰りである。相手の宗派に気づいた二人は「例の くろまめかぞ 黒豆数へ」「例の じょうこわもの 情強者」と心のうちに相手を そし 誇る。「黒豆数へ」とはその宗派の人々が黒玉の数珠をつまぐって念仏したことを嘲ったものであり、「情強者」とは四箇格言にみられるようなこの宗派の激しさへの や 揶揄である。互いに譲らぬ二人は踊り念仏と踊り唱題で競うが、その激しさにつられて口にする文句が途中で入れ代わってしまう。つまり、善光寺参りの「黒豆数へ」が と言い、他方がその逆を唱えてしまうのである。はっとして口を押さえる二人だが、考えてみれば、これらの宗派の母胎とも言える は両方の要素を含んでいる。比叡山という本源を共有する二人の僧は仲直りし、互いの教えに「隔てはあるまじ」という二人の唱和で、狂言はめでたく結ばれるのである。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|---------|---|-----|
| ① | a | 高野山 | b | 南無阿弥陀仏 | c | 天台宗 |
| ② | a | 高野山 | b | 南無阿弥陀仏 | c | 律宗 |
| ③ | a | 高野山 | b | 南無妙法蓮華経 | c | 天台宗 |
| ④ | a | 高野山 | b | 南無妙法蓮華経 | c | 律宗 |
| ⑤ | a | 身延山 | b | 南無阿弥陀仏 | c | 天台宗 |
| ⑥ | a | 身延山 | b | 南無阿弥陀仏 | c | 律宗 |
| ⑦ | a | 身延山 | b | 南無妙法蓮華経 | c | 天台宗 |
| ⑧ | a | 身延山 | b | 南無妙法蓮華経 | c | 律宗 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問4	23	⑦	3

2017 年追試

問3 次のア～ウは、日本の仏教者についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

22

ア 空海は、仏教の多様な教えを、大日如来の教えである顕教と釈迦の教えである密教に分類したうえで、密教こそが人々を悟りに導く究極の教えであると主張した。

イ 蓮如は、平易な和文で『教行信証』を著し、自力の修行ではなく、阿弥陀仏の他力によって極楽往生を遂げるべきだと説く浄土真宗の教えを、人々に広く浸透させた。

ウ 日蓮は、災害の多発する状況は、釈迦の究極の教えである『法華経』が軽視されていることに起因するとして、禅や念仏を厳しく排斥し、『法華経』に帰依すべきだと主張した。

- ① ア 正 イ 正 ウ 正
- ② ア 正 イ 正 ウ 誤
- ③ ア 正 イ 誤 ウ 正
- ④ ア 正 イ 誤 ウ 誤
- ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 正
- ⑥ ア 誤 イ 正 ウ 誤
- ⑦ ア 誤 イ 誤 ウ 正
- ⑧ ア 誤 イ 誤 ウ 誤

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	22	⑦	3

2015 年本試

問 3 次のア～ウは、法然と同様、当時の仏教に新たな展開をもたらした人物たちの思想の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 22

ア 親鸞は、阿弥陀仏の誓願を深く信じて念仏を称えよと説いた。彼の弟子の伝えによれば、これを実践できず、自力で悟ろうとする悪人こそ、救われるべき対象である。この教えは、悪人正機と呼ばれる。

イ 道元は、ただひたすら坐禅すべきことを説いた。彼によれば、身心を尽くして静かに ^{すわ}りぬく修行こそが、悟りという目的に達するための、最善の手段である。この教えは、修証一等と呼ばれる。

ウ 日蓮は、「南無妙法蓮華経」という七字の題目を唱えよと説いた。彼によれば、『法華経』こそが釈迦による究極の教えであり、唱題は、その功德のすべてにあずかることを可能にする行である。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	22	⑦	3

2010 年追試

2006 年追試

問 3 『法華経』による社会的安定の到来を説いた日蓮についての記述として最も
適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① 『法華経』は，すべての人の救済と，浄土は現実のこの世界に実現されることとを説いているとして，末法の世を否定した。
- ② 『法華経』は釈迦の説いた究極の経典だから，これを毎日読経する人は他宗を信仰していても必ず救われると主張した。
- ③ 『法華経』は久遠実成の阿弥陀仏の教えだから，この仏の名を唱えれば，国土の安穏と人々の幸福が約束されると説いた。
- ④ 『法華経』は正法を広める者が迫害されることを予言しているとして，度重なる迫害の中で，世を救う己の使命を確信した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	15	④	3

2001 年本試

問 3 念仏をとなえる者は地獄に落ちるといふ念仏無間説を説いた思想家は誰か。次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 一遍 ② 日蓮 ③ 栄西 ④ 道元

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	23	②	2

2000 年本試

問 2 以下の文章は、鎌倉新仏教の開祖たちの、神々や国土・国家に関する考え方を述べたものである。それらの中で、日蓮の思想について述べたものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① この世界は、苦しみに満ちた穢土であるから、仏の慈悲にすがって、西方の極楽浄土に生まれかわることを願うべきである。その際、末法の世の煩惱に満ちた我々は、難しい修行は不可能であるから、ひたすら念仏を唱えるだけでよい。
- ② 日本は辺土であり、時代も末世であるから、従来と同じ修行方法では、悟りを開くことは困難であるという考え方もある。しかし、仏法においては、どのような国や時代に属しているかは本質的な問題ではない。釈迦と変わらない心身の修行を実践すれば、全く同じ悟りが得られる。
- ③ 日本の神々は、本来永遠の生命をもった釈迦を守るべき存在である。しかし日本の人々は、誤った仏法を信じているため、善い神々はこの国を捨てて立ち去ってしまっている。したがって、人々を早く真の仏法に帰依させ、国家の危機を救わなければならない。
- ④ 無限の光としての阿弥陀仏は、この穢土をも包み込んでいる。したがって、自分の悪を徹底的に自覚し、すべてを仏にゆだねた瞬間に、極楽浄土への往生は確定する。そうした信仰の人を神々も自然に守護するから、阿弥陀仏以外に神々を直接信仰する必要はない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	25	③	3